提出された意見等の概要とこれに対する考え方

案　　件　　名　：　阪神地域ビジョン2050(案)
意 見 募 集 期 間　：　令和４年1月24日～令和４年２月７日
意見等の提出件数　：　29件（11人）
【反映】5件【記載済み】6件【今後の参考】1件【その他】17件

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
全体	「阪神」と一括りするには、南北双方の特性に開きが有り過ぎるように感じる。 「阪神北」の東部・北部には「北摂」としての特長があり、統合的にまとめることで、個々の特徴が埋没しないか。	1	【その他】 ご指摘のとおり阪神地域内においても多様な特色が見られるが、本県は、摂津、播磨、丹波、但馬、淡路という気候風土、歴史文化の異なる五国からなる県であり、これをさらに９つの地域に区分した一つを阪神地域として地域ビジョンをとりまとめることとしている。第４章シナリオをはじめ、阪神南北地域それぞれの特性を考慮した内容を盛り込んでいる。
第２章 (1)人口減少・高齢化	人口減少に対する社会の姿やチャンスが見当たらない。検討した結果ならよいが、社会的に人口減少の何かが必要。	1	【記載済み】 人口減少に関する2050年に到来すると考えられる社会の姿やチャンスについては、第２章（１）②に記載済み。
第３章 (5)① 多彩な産業	「商店街を地域住民が日常的に利用するなど」は、普通と感じるが、それは多くの地域でシャッター商店街が多い中、利用する人がいるというのが阪神地域の特徴ということか。	1	【その他】 県民意識調査において、駅前や商店街に活気が感じられると思う人の割合が、阪神南地域は県下で最も高いなど、他地域においては非常に厳しい状況にある商店街もあるなかで、阪神地域の特徴として考えている。
第３章 (6)③	防災士が多いのは、人口が多いからで、資格取得者は多いが、防災意識が高いかどうかは疑問である。	1	【その他】 阪神・淡路大震災以降、災害復興や防災に取り組み、現在、本県は防災先進県と言われており、県民の防災意識も高いと考えているが、県民の防災意識の高さを示す適切な指標がないため、定量的に示すことができる防災士の人数を記載することとした。

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
第４章 基本理念	基本理念を「コ・クリエーション（共創）を育む阪神地域」とおき、地域ビジョンの実現に向けた４つの方向性を示し、18のシナリオを段階ごとに描いていくとあるが、「協働」理念がどのように作用するのか。 「共創」は、長年「協働」で創り得た状態から二歩後退の状態をめざすということになるのか。	1	【記載済み】 多様な人々が協働して新しい価値を創り上げることが「コ・クリエーション（共創）」であり、「コ・クリエーション（共創）」はこれまで育んできた「協働」という理念を更に進めたものと考えている。 各シナリオの取組を「コ・クリエーション（共創）」により進めることで、新たな価値や考え方を生み出すことで、2050年にめざしたい姿が実現できると考えている。
第４章 シナリオ全体	人口減少や少子化に対するシナリオが少ないのではないか。	2	【記載済み】 シナリオ１、シナリオ10に記載済み。
シナリオ１	趣味を持たない方へのアプローチが必要である。	1	【反映】 「将来への取組」の該当箇所を「地域の活動や趣味の集まりに気軽に参加できるように、」に、「2030年頃の中間像」の該当箇所を「複業や地域活動ができ、趣味の発見や実現など柔軟な働き方や生活スタイルを実現している」に修正。
シナリオ４	各市町に国際交流協会があると思うが、そこを積極的に働きかけて活用するのはどうか。	1	【その他】 国際交流協会は様々な取組を行っており、国際交流協会をはじめ、企業、県民などの様々な主体が自ら主体的に取り組むべきと考えている。
シナリオ４	移民を積極的に受け入れている国は栄えている。人口問題を考えるうえで、少子化対策をすべきか、移住者を増やす対策が良いのか考えた方がいい。シナリオ４で人口増加を盛り込んではどうか。	1	【その他】 移民については、国全体の受け入れ方針が転換して行うべき対策であると考えられるため、現状では、当該地域ビジョンに移住者増加対策の記載は難しい。ただし、記載の取組は、移住者にとって住みやすい地域の実現をめざす取組であるため、多文化共生を進めることで外国人の方々にもいきいきと暮らせることを目指している。

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
シナリオ9	エネルギーも重要だが、「共創」という中で考えると「Ⅲみんながつながるやさしいまち」の前に「つながる」が大切に思うので、一番初めではなく、シナリオ12の前後がよいのではないか。	1	【反映】 ご指摘を踏まえ、「自分あった“つながり”に参加できるまち」のあとに配置します。
シナリオ10	繋がりのコーディネートをするマグネット機能や、個がいきいきといられるための最低限のゆとりが守られることが必要ではないか。	2	【反映】 「将来への取組」の該当箇所を「子育て世代が住みたくなるような、情報交換の“場”をコーディネートする人材を育成し、内容を充実させる」に修正。 「2050年にめざしたい姿」の該当箇所を「地域で気軽に集まれる場所やコミュニティができており、シングルでも参加できるコミュニティなど、様々な住民がゆとりを持ってコミュニティに参加している」に修正
シナリオ11	「将来への取組」には、「声を掛け合う、誘い合う」という項目を取り入れてはどうか。一人で参加するのは勇気がいるため、声の掛け合いが重要と思われる。	1	【反映】 「将来への取組」の該当箇所を「既存のコミュニティの情報をオープンにして、コミュニティがあることを分かりやすくするとともに、コミュニティ側からも声を掛けるなど参加しやすくする」に修正。
第５章 全体	「中間支援組織」と言われるNPO法人で、様々な主体の間に立って「マチのコンシェルジュ・コンサルタント」のような役割や「アドボカシー」機能も持つ活動をしている立場からポストコロナ社会を見据えたとき、様々な主体同士の「連携」「連帯」、そして「協働」視点に基づいた動きが不可欠だと考えている。新ビジョン策定ののちの運用場面では、県内各所で活動するこのような「中間支援組織」が、その存在意義を遺憾なく発揮できることを願っている。	1	【その他】 中間支援組織とともに取り組んでいきたい。
第５章 (5)行政	CSRの推進を行政がバックアップして地域との関係性を構築するという項目を入れてはどうか。	1	【記載済み】 企業の社会的責任（CSR）の推進への行政に支援・助言については、第５章(5)に記載済み。

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
第５章 (5)行政	この時代の過渡期を乗り越えていけば、2050年へステップできると思う。 ただその糸口になる様、私達のリーダーシップをとってくれる政策窓口も必要ではないか。	２	【記載済み】 第５章(5)に記載済みだが、今後の取組の中で活かしていきたい。

その他、AI の活用、教育、県政などに関する意見が８件、「自分たちも共に試行錯誤していきたい」など３件の意見があった。